東京東村山ロータリークラブ　国際ロータリー第2580地区

週報

国際ロータリーテーマ
世界への
プレゼントに
なろう
世界へのプレゼントになろう

Vol.49　第2390回例会　2016.2.4

今年度会長テーマ　ロータリーでハッピーライフ！

■司会：岩原会員

■点鐘：戸澤会長

■国歌：君が代
■合唱：ロータリーソング
「奉仕の理想」

◆ソングリーダー：
野澤(厚)会員

■お客様紹介：
野澤パスト会長

■お客様:
東村山青年会議所
第43代理事長
小町　佳吾様
専務理事
當麻　智勇(トモオ)様

■会長報告　戸澤会長

先週は、沖縄『宜野湾 RC 創立 50 周年式典』参加に伴う家族親睦旅行に参加した方、お疲れ様でした。今回も 2 泊 3 日、至れりつくせりのオモテナシを受けました。手作りの式典、講演は無し。自クラブの会員の表彰を主にした素晴らしい 50 周年でした。

式典が終わってからの二次会、翌日の観光、普天間宮の正式参拝と古宇利島の観光。豪華なホテルでの昼食。観光が終わってからの『あしび jima』で当クラブだけの歓迎会をして頂き、その後の二次会まで全部お世話になりました。1 日目の懇親会、二次会が終わって、一部の方で宮城さん、白間さんの誘いで 3 次会に行かれたそうです。翌日の観光が終わったあとも二次会が用意されており、宜野湾は宮城さん、白間さん、新垣さんが同行し、東村山は私を含めて 11 名が二次会に行きました。

当クラブの 50 周年も来年の 2 月 23 日。先日会長と役員で第 1 回打ち合わせを行いました。また、本日目時東京東村山 RC50 周年実行委員長から記念式典の担当委員長の発表があり、来年の 2 月に向けて準備をして参ります。会員全員のご協力を宜しくお願い致します。

事後報告で、運転手さんへの心付けと宜野湾普天間宮の正式参拝を初穂料を出させて頂きました。(参加者から預かった旅費から出費することに理事会で決めました。)

50 周年の友好委員長が戸澤から野澤秀夫会員へお願いしました。

次年度交換留学生を預かる件で審議しました。当年度、次年度会長幹事、青少年奉仕、青少年交換、元地区青少年交換委員長で委員会を作り当クラブとしての方針を決め早急に地区に連絡をする。

3 月 24 日(木)『TRC 合同例会』掬水亭で親睦を中心に開催することを決めました。

■例会日／毎週木曜日 12:30～13:30
■例会場／八坂神社 社務所
〒189-0013 東京都東村山市栄町3-35-1

■クラブ管理委員会／北久保　隆一
■事務所／〒189-0013
東京都東村山市栄町3-5-1ハイツむさしの101
TEL 042-393-7500　FAX 042-395-1166

■幹事報告　飯田幹事

■ガバナー事務所：
・地区人頭分担金 (下半期) について
　地区運営費・事業費、ガバナー月信購読料、青少年交換プログラム資金
　締切　3/31

・2018 ～ 19 年度当地区ガバナー (ガバナーノミニーデジグネート) 決定の件
　2018 ～ 19 年度当地区ガバナー (現ガバナーノミニーデジグネート)
　東京葛飾東ロータリークラブ　松坂順一君

・クラブロゴの作成について
　「Rotary」のみ書かれたロゴは基本的に RI 本部使用
　地区用、分区用、クラブ用に分けて使用が望ましいのでクラブロゴを作成すること

■ガバナー事務所 (ホスト：東京武蔵野中央 RC)：
　地区大会に関する件 (抜粋)
　1. 表彰について (当クラブが表彰されるもの)
　　・100%「財団の友」会員クラブ
　　・「EREY」クラブ→戸澤会長が登壇し代表して賞状を受けます
　2. プレゼンターは米山奨学生
　3. 事務局のお手伝い
　　・2016 年 2 月 25 日 (木)　11 時集合
　その他
　(本大会 2/25(木)12:00 登録開始　13:00 開会)

■ガバナーエレクト事務所：
・2016 ～ 17 年度地区委員就任承諾書について
　地区資金推進委員会　委員長　當麻　誠会員
　地区拡大増強委員会　委　員　野崎一重会員

・2016 ～ 17 年度地区チーム研修セミナーの案内について
　2016 年 3 月 10 日 (木)　14:00 ～
　於　ハイアットリージェンシー東京

・2016 ～ 17 年度 PETS の案内について
　2016 年 3 月 17 日 (木)　14:00 ～
　於　ハイアットリージェンシー東京

■ロータリーフェローズ東京：
　ロータリーフェローズ東京　春季例会の案内について
　2016 年 4 月 23 日 (土)　14:00 ～
　於　日本外国特派員協会

■ローターアクト委員会：
　ローターアクト主催第 1 回ロータリーファミリー交流会の案内について
　2016 年 3 月 13 日 (日)　13:00 ～ 17:00
　於　浅草周辺

■国際ロータリー日本事務局：
　2016 年 2 月のロータリーレート　1 ドル=120 円

■職場体験・インターシップ委員会：
　中学生職場体験・高校生インターシップ受入事業所登録のお願い
　締切　2 月 29 日

■東京東大和ロータリークラブ：
　メールアドレスの変更について
　新：info@higashiyamato-rc.org

■日体桜華高等学校：
　卒業証書授与式の案内について
　2016 年 3 月 3 日 (木)　10:30 ～
　於　本校第一体育館

■東海大学菅生高等学校：
　第 31 回東海大学菅生高等学校卒業式の案内について
　2016 年 3 月 8 日 (火)　10:00 ～
　於　本校体育館

■回覧：
・ロータリーコーディネーターニュース 1 月号、2 月号
・青少年奉仕情報

■出席報告　相羽会員

在籍会員数	出　席	免　除	欠　席	出席率
29	27	0	2	93.10

■ニコニコＢＯＸ　石山会員

■ご結婚祝月：
　石山会員、北久保会員
　中條会員

■会員誕生祝月：
　町田会員、野澤会員
　中條会員

◆戸澤会長、飯田幹事：先日の『宜野湾 RC 創立 50 周年式典』参加に伴う家族親睦旅行はご苦労様でした。あわもりの洗礼で体調を崩したかたもおられるようですがお大事に。沖縄らしい大変すばらしい 50 周年記念でした。是非当クラブ 50 周年記念の参考にしたいと思います。また 2 月 25 日(木)ホテルニューオータニで行われる地区大会 100％出席でお願いします。
◆野澤秀夫会員：早くも我が家に春一番が吹きました。学校推薦を頂いた孫が都立国立高校に合格しました。DNA が繋がっていると思うと嬉しさ倍増です。
◆當麻会員、小町会員：本年度東村山青年会議所第 43 代小町佳吾理事長、當麻智勇(トモオ)専務理事がいみじくも當麻さんと私の息子です。会員拡大においても太いパイプになると思います。どうぞよろしくお願い致します。写真頂きました。ありがとうございました。
◆田中会員：東村山青年会議所第 43 代理事長小町佳吾様。専務理事當麻智勇様、ようこそお越し下さいました。23 歳以下サッカー、見事アジアチャンピオンになりました。決勝戦 2 点得点した浅野選手尊き同志です。親孝行の息子さんでもあり嬉しく思います。目指せリオ五輪金メダル。
◆岩原会員：先日は『宜野湾 RC 創立 50 周年式典』参加に伴う家族親睦旅行について、北久保委員長の完璧な仕切りで楽しく行ってきました。写真、ありがとうございました。菱沼さん、チョコレートありがとうございました。私ごとですが、娘が埼玉医科大学に合格しました。第一志望の信州大学に合格出来るように神社に参拝してきます。
◆金子会員：東村山 JC の第 43 代理事長小町佳吾さん、専務理事當麻智勇さん、ようこそいらっしゃいました。若い力で JC 運動に取り組んでください。応援しています。菱沼さんいつもありがとうございます。お身体を大切にしてください。これからもよろしくお願い致します。
◆野澤厚子会員：皆さんお帰りなさい。お土産ありがとうございました。野澤秀夫さんのお孫さん難関の名門高校合格おめでとうございます。
◆野﨑会員：先日の沖縄では大変お世話になりました。ありがとうございました。
◆樺澤会員：沖縄では大変お世話になりました。今日はつまらぬ卓話ですが、ご容赦ください。菱沼さん、ありがとうございました。
◆隅屋会員、野村会員：菱沼さんいつもありがとうございます。JC の第 43 代理事長小町佳吾様、専務理事當麻智勇様ようこそいらっしゃいました。
◆中條会員：JC の第 43 代理事長小町佳吾様、専務理事當麻智勇様ようこそいらっしゃいました。本年 1 年間 JC 活動頑張ってください。
◆北久保会員：皆様のお蔭で総勢 22 名参加の『宜野湾 RC 創立 50 周年式典』参加に伴う家族親睦旅行を無事に終えることができました。心からお礼申し上げます。
◆中丸会員：沖縄旅行、皆様お世話になりました。写真、ありがとうございました。JC の理事長小町佳吾様、専務理事當麻智勇様ようこそいらっしゃいました。
◆目時会員、當麻会員、嶋田会員、戸澤会員：写真頂きました。ありがとうございました。
◆戸澤会員、清水会員：菱沼さん、チョコレートありがとうございます。
◆菱沼事務局：ちょっと早いバレンタイン。こころばかりのものをメールボックスに入れさせて頂きました。ご笑納ください。先日の宜野湾に同行させて頂きありがとうございました。私の席が指定されておらず残念ながら式典会場に入ることが出来ませんでした。次年度の 50 周年式典では、この経験を生かして頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

本日のニコニコ合計：　68,000円
累　　計　：　884,000円

■委員長報告

■金子次年度会長：

お手元に配布させていただきました『50 年度理事役員・委員長・委員』一覧表。副委員長さんと委員の方々のお役を決めさせていただきました。宜野湾友好委員長は何年か続いたほうが宜しいということで、野澤秀夫会員にお願いいたしました。

■目時東京東村山 RC
50 周年実行委員長：

『ガバナー通信』に掲載されている東京田無けやき RC の高崎三成さん、1 月 4 日にご逝去。わたしは、年末にお会いしていましたのでショックです。71 歳。皆さん御気をつけください。
50 周年の会議を 2 月 17 日(水)18：30 から『たきび』で行います。一覧にある委員長方々はご出席ください。

■北久保クラブ管理委員長：

『宜野湾 RC 創立 50 周年式典』参加に伴う家族親睦旅行については、お蔭様で無事に終えることが出来ました。
お預かりしているお金のご返金にはいましばらくご猶予をお願いいたします。
週報の最新版は『1 月 27 日』の誤りです。ありがとうございました。

■ご挨拶

■JC第43代理事長：
小町佳吾様

日ごろから父がお世話になっています。昨年 OB 合同例会で RC 様と一緒に会合がありました。今年は私も理事長ということで RC 様と一緒になにか事業ができたらとおもいます。

■専務理事：當麻智勇様

私が長男で、背の高いほうが弟です。今年は小町理事長と私で引っ張っていかなければなりません。私の父も小町理事長の父も JC 出身。お互いジュニア同士が理事長専務理事でやっていくということになります。我々が卒業すると JC に息子たちが居なくなる。今ここにいらっしゃるメンバーでお知り合いとか 40 歳までのかたがいらっしゃいましたら是非ともご紹介頂きたいと思っています。今年度頑張っていきますのでよろしくお願い致します。

■卓話

■卓話者：
田中重義国際奉仕委員長

国際奉仕委員会の卓話となっています。大事な卓話ですので、尊敬している樺澤副委員長にお願いすることといたしました。

私が RC に入会したときのこと。RC は雲の上の団体。お金持ちの集まり。毎週例会をやっていて暇人の集まりだと思っていました。だから例会に 1 回だけ顔を出してお誘いをお断りしようと思っていました。その時の例会が中国からの米山奨学生の卓話でした。いま中国に帰って頑張っていられるのは東京東村山 RC の皆様のお蔭です。中国と日本の架け橋として恩を忘れずに頑張っていきたいと話されました。聞いていて寒気がし、鳥肌が立ちました。RC は凄い団体だと気づかされ自分から進んで入りたいと。RC 会員の皆さまに申し訳ないと今でも思っています。

関東大震災の時、米国の RI の本部より当時のお金で 50 億円もの義捐金。学校病院の再建に役立てることができ、そのことで日本の RC が大発展したと。当時の先輩の気持ちを思うと忘れてはならないことだとおもいます。

インドでの RC の活動。インドのご婦人が RC の人たちに対して、あなたたちは私のことを知らないでしょうが、と言いながら涙していました。訳を聞いたところ、住むところもなく、どん底の状態の時、様々なものを提供して頂き、将来に希望までもてるようになった。RC の皆様に心から感謝しています。と話していました。このように世界の平和に繋がるのは人材の育成、奉仕の心だと。RC は素晴らしい団体だと思います。心を大切にしていきたいとおもいます。

■卓話者：
樺澤国際奉仕副委員長

「平和と紛争予防／紛争解決月刊」に因んで

1905 年 2 月 23 日に米国シカゴにてポール・ハリス氏などによってロータリークラブの最初の例会が開催され、その 2 月 23 日がロータリー創立を記念する「世界理解と平和の日」とされています。そして、2 月は「世界理解月間」として指定され、「世界平和のために理解と親善」を強調するプログラムや活動をする特別月間とされておりました。この２月２３日は、今から約半世紀前に私どもの東京東村山ロータリークラブが創立された日と同じであることは皆様ご承知のとおりです。

本年度から、2月の特別月間は、「平和と紛争予防／紛争解決月間」に変更され、この特別月間に関して、国際ロータリーの理事会は、紛争予防と仲裁に関する将来にリーダーとなることが望まれる若者を対象とした研修の実施、紛争地域における平和構築の支援、平和と紛争予防／紛争解決に関連した仕事に従事することを目指す専門職業人のための奨学金支援を強調する月間と指定されました。

この「平和と紛争予防／紛争解決月間」という特別月間に変更された理由などに関する資料は私の手元には見当たりませんでした。この特別月間も「世界理解月間」と同じく、世界平和には理解と親善とが必要であることを認識する月間であり、ロータリー財団の「未来の夢計画」を強調することを目的として、ロータリー財団の発想に軸足を置いたロータリー活動を展開する意図と私なりに理解しております。

私の実家がある新潟県の長岡は、百年足らずの間に、戊辰戦争と第二次世界大戦で壊滅的な被害を受けました。特に、昭和 20 年 8 月 1 日夜に米軍による爆弾と焼夷弾による空襲があり、そのとき、私は小学校の 6 年生でした。翌日に、父と市内を尋ね回りましたが、街並みは焼き尽くされた焼け野原となって消え失せており、道路には、軍需工場に徴用された若い娘さんなど多くの人たちが黒こげになったまま放置されていました。当時は、アメリカ人は鬼畜生で、酷い奴らだと思いました。これが、次第に当時の光景を思い出すたびに戦争の悲惨さの思いが深くなり、多くの市民が悲惨な犠牲になっていること、そして、戦争は如何なる理由があろうと人間がすることではなく、絶対に避けるべきであることを体験した者がお伝えする義務があるとの思いが募ってきました。

今週の日本経済新聞に紹介されていましたように、夏目漱石が著書「こころ」で「明治の精神に殉死すると語る。」という謎めいた言葉を著されていますが、社会学者の作田啓一氏は、この意味を「徳川時代の古い道徳に代わり、明治に新しい道徳が芽生えた。しかし、人々の心は、あっという間にカネと権力という欲に奪われてしまう。」という漱石の危機感の表現と説明されています。

徳川時代には、約 260 年の間、人民を犠牲とする争がなく、それが、明治維新で新政府に代わると、戊辰戦争、西南戦争など明治政府を相手とした内戦が起こり、さらに、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、支那事変、第 2 次世界大戦とほぼ 80 年の間に多くの戦役があり、軍人さんばかりでなく、多くの日本の市民、外国の市民が犠牲になっております。

第一次世界大戦の影響で、多くのロータリアンは優先事項に平和を挙げることを切望し、1922 年の年次大会で、ロータリーの綱領に平和に関する項を加えることを採択し、時代と共に綱領の表現は変化しても、世界的親交によって

国際間の理解と親善、その結果、平和を推進するということは変わりません。

第二次世界大戦では、ユダヤの難民として苦難の道を歩かれ、戦後は国連に勤務されたサンディエゴ大学の名誉教授のジョン・G・ストウシンガー氏は、「なぜ国々は戦争をするのか」という著書で、「戦争の勃発は、戦争を始めた指導者たちの誤認識が最も決定的な要因である。」と述べられているようです。この分析からみても、誤認識が生じることを如何にして防ぐかは、「理解と親善」とが重要なことであり、「理解と親善」には、奨学生などの世界各国の皆さんと交流することにより大きな成果が得られ、平和と紛争予防に大きな成果を期待できるとして、特別月間を変更されたものと推測されます。

そこで、今年5月には韓国における世界大会で、米山奨学生の姜さんと交流を深めるのも、「理解と親善」の小さな一歩であっても、この輪を広げれば大きな成果を挙げられると思います。

皆様ご存知の天文学者で地動説を唱えられました「コペルニクス」は、キリスト教の聖職者でありながら、聖書の記載されている天動説を否定して、太陽の周りを地球が回っているという地動説を説明いたしました。このことは、キリスト教的世界観を覆し、キリストの神に対する信仰を否定するに等しい行為であったと考えられます。これを哲学者のカントは、コペルニクスの発想の大転換になぞらえてコペルニクス的転回といわれています。このことは、固定的、一面的、絶対的な考え方の矛盾をそのまま信じることなく、発想の転換が必要であるということを意味していると考えられます。

一方、わが国には、平家物語の冒頭に、「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰のことわりをあらわす。おごれる人も久しからず、只春の夜の夢のごとし。」と記され、これは、祇園精舎はお釈迦様のお寺ですが、このお寺ですべてのものに常なるものはないと鐘が響いている。勢いにのる平家一門もいつかは必ず衰えることが、物事の道理であると理解されます。

また、方丈記の冒頭には、「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたる例なし。人とすみかと、また、かくのごとし。」と記されています。要は、最初から最後まで、同じ形のまま長い間一つ所に留まるものはない。世の中にある人も住みかも、また、常に同じではないことを説明していると理解されます。

地位や名声をほしいままにしている人も貧しい人でも、正直に生きている人でも悪人でも、健康な人でも病気の人でもいずれは死にます。このことは、平家物語では、沙羅双樹の花に、方丈記では河の水の比喩を用いていますが、このような考え方は、日本仏教の「中道」という考え方に基づくものであると考えられます。

仏教では、世界のものが確固たるものであるという一面的な見方に問題があると考え、世界は無常で、はかなく、生き物は必ず死ぬものであり、苦しみをもたらす原因となっている様々な事物に対して固定的・絶対的・一面的な見方をしていたことを自分が自覚することによって、仏の境地に達して心の絶対的な平安を得ることができると説明しています。ここに達する境地になるためには、親善と相互理解に基づき、一面からのみ物事を見ることなく、多面から物事を見ることにより「中道」の心境が得られると考えられます。

先日、上野の森の美術館で開催されていた「肉筆浮世絵」を鑑賞しましたが、美人画に混じって、「義経千本桜」に関する浮世絵が展示されていました。「義経千本桜」は、人形浄瑠璃、歌舞伎などの演目で、皆様ご承知のことと存じますが簡単にご紹介します。このお話は、源義経が平家を滅ぼし、その報償として後白河上皇から「初音の鼓」を拝領しました。この鼓は鎌倉に幕府を開いている兄の源頼朝を打てとの上皇の暗示であるといわれ、弁慶は報償の「初音の鼓」の受領に反対しましたが、義経は兄の源頼朝も「初音の鼓」も打たないと心に誓って拝受しました。そして、義経は兄の源頼朝から追われ、静御前と別れて逃避していましたが、静御前は義経が恋しくなり、「初音の鼓」を持参して義経がいる吉野の山を訪ねることにしました。この道中で「初音の鼓」を打っておりますと、義経の家来である佐藤忠信が現れ、静御前を守って吉野の山に向かいました。静御前が吉野の山に着く前に、義経のところに、家来である佐藤忠義が到着し、義経が静御前のことを尋ねると、知らないとの答えでした。そこに、静御前と佐藤が辿り着いたとの連絡があり、義経は静御前に会い、そこに家来の佐藤がいないので、佐藤はどうしたと静御前に尋ねましたが、佐藤が消えていました。静御前は一緒に来た佐藤は、義経の家来の佐藤とは別人であることがわかりました。そこで、「初音の鼓」を打つと、別人の佐藤忠信が現れると聞いた義経は、隠れて、静御前を一人にして「初音の鼓」を打たせましたところ、別人の佐藤が「初音の鼓」の音にうっとりと聞き入って現われました。そこで、静御前は遅かったと云って刀で切りつけましたが、「切られる覚えはない。」と抵抗しましたが、静御前に責められ、自分は源九郎狐であると正体を白状し、実は「初音の鼓」の皮は、親の狐の皮が用いられている。と述べ、源九郎狐は泣きながら姿を消しました。

このことを知った源義経は源九郎狐を呼び戻そうと、静御前に「初音の鼓」を打たせましたが、鼓は少しも音を発せず、鼓には親狐の魂が籠り、別れを惜しんでいると義経は感じました。義経自身も幼少のとき、父とは死に別れ、兄の源頼朝とも別れて鞍馬山で寂しく過ごしたことから、親兄弟との縁の薄さは、源九郎狐と同じであると嘆いていたところ、源九郎狐が現れました。

源義経は静御前を今まで守ってきた功績に報いるために、「初音の鼓」を源九郎狐に与えました。源九郎狐の喜びようはこの上もなく、鼓とともに姿を消しました。そして、源九郎狐は源義経に、源頼朝の家来どもの敵方が討ち入りに来ることを伝え、義経は体制を整えて待ちかまえ、さらに、源九郎狐は敵方を化かして、義経は無事であっというような筋書です。

この物語から、源九郎狐が、静御前から「初音の鼓」を奪うこともできたのに、奪わずに親善から静御前を守ったことにより、殺されることなく、親の魂の籠る「初音の鼓」を貰い受けることができたのでした。

この源九郎狐で思い浮かんだのが、ごん狐のお話で、この話は教科書にも掲載されていたようで、多くの方がご存知かと思いますが、お話させて頂きます。

ある田舎の村に、兵十という名前のお百姓さんが住んでいました。また、この村から離れた山の中には、ごんという名の狐が住んでいました。このごんは村に現れては、畑のいもを掘り出したり、お百姓が収穫した野菜などをむしり取るなど、悪さをしていました。

ある雨が上がった日に、ごんは山から下りて村の小川の土手にやって来ました。雨の後だったので、普段は流れの少ない川の水は泥水となって増水していました。このとき、ごんは、川の中で腰のところまで水に浸りながら、網で魚を捕っている兵十を見つけ、そっと見つけられないように近付きました。しばらくして、兵十が網を引き揚げると、網の底の袋状のところに、草の根や、葉などのごみに混じて、うなぎや魚が入っており、兵十はごみと共に魚をびくの中入れ、びくの袋口を縛って土手の上に置いたまま、着物を取りに川上の方に駆けて行きました。

兵十が走り去った土手の上にあるびくをごんが開いて、悪戯で、びくの中の魚を川に投げ捨てました。最後に太いうなぎを掴もうとしましたが、うなぎはぬるぬると滑り、掴みきれませんでした。そこで、ごんはびくの中に首を入れてうなぎの頭を口にくわえこみましたところ、うなぎは、ごん

の首に巻きついてしまいました。そのとき、戻って着た兵十がごん狐を見つけ、「盗人狐め」と怒鳴りましたので、ごんはびっくりして飛び上がりましたが、うなぎはごんの首に巻きついたままで、そのままごんは逃げてしまいました。兵十が追いかけて来ないことをみて、ごんはうなぎの頭をかみ砕いて首からやっと外したのでした。

その日からしばらくして、ごんは村に出てきたところ、お葬式があり、兵十のお母さんが亡くなったと知ったごんは、山に戻り、兵十のお母さんは、亡くなる前に床について、うなぎが食べたいと云ったに違いない。自分が悪戯したため、兵十は、お母さんにうなぎを食べさせることができなかったのでないかと思い、悪戯をしなければよかったと反省していました。

数日後、ごんが村に来て兵十が食事の用意をしているところをみて、お母さんが死んで兵十が一人ぼっちになったことを知り、立ち去りかけたところに、魚屋が「生きのよいいわしはいかが」と掛け声で売り歩いて来てきました。そこで、兵十の隣の家から「いわしを下さい」と声がかかりました。魚屋はいわしをつんだ車を道端において兵十の隣の家に行ったところ、ごんは車に積んだいしわし掴み、兵十の家に投げ込んで山に戻り、うなぎの償いができたと思っていました。

翌日、ごんは、栗を沢山拾って兵十の家に置いて出ようとしたところ、兵十は、顔に傷がついてるのに気が付き、「いったい誰がいわしなんかを家に放り込んだのだろう、おかげで盗人と思われ、ひどい目にあった。」と独り言を云っているのを聴きました。

ごんは、また兵十に申し訳ないことをしたと思い、翌日、またその翌日と、連日栗を拾って、ときには、松茸を混ぜて兵十の家に届けました。

ごんが、月夜の晩に村に来ると、兵十が仲間に「この頃、不思議なことがあるんだ。お母さんが死んでからは、家に誰かが栗や松茸なんかを毎日くれるんだ。」と話しているのが聞こえました。仲間は、兵十に「それは神様が、お前が一人ぼっちになったのを憐れんで恵んで下さったのだよ。神様にお礼を云わなきゃダメだよ。」と云っていました。

ごんはこれを聴いて、ごんが栗や松茸を持って行ったのに、俺にお礼を言わずに、神様にお礼を言うのでは、俺は引き合わないなと思っていました。

その翌日も、ごんは栗をもって、兵十の家に入りました。そのごんを兵十が見つけ、うなぎをとった狐の野郎だな。また、悪戯にきゃがった。と鉄砲でごんを撃ちました。ごんはその場で倒れ込み、兵十が駆け寄ると、ごんのところに栗があるのを見つけました。そこで、兵十は、ごんに「栗をくれたのは、お前だったのか。」というと、ごんはぐったりしてうなずき、兵十は鉄砲を落としてしまいました。

以上でごん狐のお話は終わりですが、皆さまこのお話からなにを感じられたでしょうか。

自分に損になること、嫌なことはしたくない。周囲の人から褒められたいということは、誰でも持っている感情ですから、それを無理やりに心の奥底に押し込めるよりも、自分に率直になって言い表した方が良いという考え方もあります。しかし、長い目で見れば、世俗的な価値観に基づく感情に従って利己的に行動すると、幸福は得られないので、仏教では、利他的な行為が結果として自分の幸福につながると考えられています。

ごんは、兵十の幸福より自分の幸せを重視する方向へと心が揺らいだので、鉄砲で殺されるという結末を迎えてしまいます。

兵十に償いの気持ちをやっと気づかせることができたと思った刹那、ごんは死ななければならなかったのでした。ごんの気持ちは、兵十がごんがお詫びの気持ちでしたことを知ってくれれば死んだっていいのにと思っていたかも知れません。

一方、ごんの死によって、兵十は、ごんに対する悪いイメージ、いたずらな盗人狐という一面的な見方が変化したのでした。

若しも、兵十が幸福に生きたいと願うのならば、ごんがうなぎを盗んだ段階で、ごんを赦していたら、ごんは、兵十に心の底から感謝し、ごんの幸せな気持ちは、兵十自信も感じたと思われます。

詰まらぬ話を長々と致しましたが、要は、仏教では、外面的によい行為をしていればそれてよいというわけではなく、その行為をどういう動機で、どういう気持ちで行ったかということが非常に大事であり、先にお話ししましたように、固定的・絶対的・一面的な見方をしていたことを自覚することによって、中道の心境が得られるとしています。それには、コペルニクス的転回によって発想の転換が必要かと思います。

そこで、仏教の信者となることをお勧めするのではなく、この仏教の考え方を世界の皆様に理解していただけることにより、世界平和に必要な理解と親善得られ、世界平和が期待できるものと考えます。

（光文社新書・東ゆみこ著「大人のための仏教童話」を参考にさせていただきました。）

■野村会員研修副委員長：

『ロータリーの友』

◆横組み 6P
ロータリーの誕生と成長、そして日本のロータリークラブについて書かれています。

◆8P から 13P まで、『子供たち、若い人たちが夢を持てる未来のために』特集ページです。児童養護施設の子どもたちとのふれあい事業、こども療育園のこどもたちに療育活動の質の向上と活性化の為に電動車いす寄贈等、各クラブ思考を凝らしたこどもたちの奉仕活動の紹介ページです。

◆22P にソウル国際大会が開催される高陽を 100 倍楽しむ方法が紹介されています。

◆23P は、ロータリーの公式ロゴについての記事です。ロゴの正しい使用方法が紹介されています。

◆横組み
4P から 8P までスキージャンプの葛西紀明選手が昨年 4 月 25 日に第 2510 地区合同 IM で夢をかなえると題した基調講演の紹介ページです。是非一読下さい。

■閉会点鐘：戸澤会長